



新どさんご研究所 銭湯を文化の発信基地に 銭湯で学ぶカルチャースクール「ふろカル」を開校



株式会社北海道博報堂（札幌市中央区）の研究組織「新どさんご研究所（以下、新ど研）」では銭湯から北海道の文化を発信するプロジェクト「ふろカル」を始動いたします。人々のコミュニケーションに役立っていたまちの銭湯は、札幌市内でもここ20年で143軒から39軒にまで激減しています（※）。孤立化やつながりが希薄化する中で、改めて銭湯の魅力を発信し地域活性化に貢献していきたい。新ど研は、そのような思いで銭湯を文化の発信基地とするプロジェクトを始動いたします。

「ふろカル」では、北海道内で活躍する人を特別講師に迎え、銭湯のロビーや脱衣所を教室にしたカルチャースクールを開校いたします。

第1回開催概要

日時	2019年4月7日(日)13:00~14:30 (開場12:30)
会場	福の湯 札幌市北区新琴似7条6丁目6-1
講師	ARAMAKI(村上智彦・鹿川慎也)
参加費	せんとう 1,010円(入浴料込)
定員	30名程度

※ 厚生労働省「衛生行政報告例」等より

◎ ふろカルの詳細、お申込みは特設サイトをご覧ください。特設サイト：<http://www.fulocal.net>

◎ 開催当日、取材対応させていただきます。
お問い合わせ、ご質問などは下記お問い合わせ先までお願い致します。

ふるカルのテーマは、ローカルカルチャー。

第1弾は、福の湯（札幌市新琴似）において、新巻鮭の輸送用木箱（鮭箱）を再利用するものづくりユニット「ARAMAKI」の村上智彦氏、鹿川慎也氏を講師にお招きし、「じわじわはじめる、ものづくり。」をテーマに、北海道でのものづくりについて講演いたします。

また会場では、宮大工である村上智彦氏と楽器職人の鹿川慎也氏によるこれまでの作品の展示や、「ARAMAKI」のアイテムも販売いたします。

セミナー後はもちろんひと風呂浴びて、日頃の疲れを癒してください。

■講師紹介



村上 智彦

1978年恵庭市生まれ。Gen & Co.代表。
札幌市立高等専門学校卒。関西を中心に社寺建築の世界に携わり、2012年から拠点を恵庭市に。社寺建築の伝統的な技術と知識を軸に、大工・建築家・デザイナーとして幅広く活動している。



鹿川 慎也

1987年恵庭市生まれ。Shikagawa Musical Instruments代表。
ギターメーカーESP、Navigatorブランドの木工、塗装を担当。1,000本以上の楽器づくりに関わる。母校での講師を3年務めたのち、2015年より恵庭市へ。ギターとベースを中心に楽器の製作と修理を行っている。

■会場紹介



福の湯

1971年創業。札幌市北区の住宅街に位置し、古くから地元住民に親しまれている。現在の屋号である「福の湯」には、「入浴されたお客様が幸福な気持ちになれますように」との願いが込められている。石油式でお湯を沸かす銭湯が主流とされる中、材木を利用し沸かしており、利用客からは「お湯が軟らかい」と評判である。

■実施体制

主催・企画

運営

協力

新ど研

新どさんご研究所

札幌オオドオリ大学

札幌銭湯

【新どさんご研究所（新ど研）概要】



北海道民の今の姿をデータで明らかにしながら、「一步先の北海道民＝新どさんご」と定義して、その変化を予測・提言する(株)北海道博報堂が設立した研究組織。

所長：山岸 浩之

<プロフィール>

2014年北海道博報堂入社。

コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。